



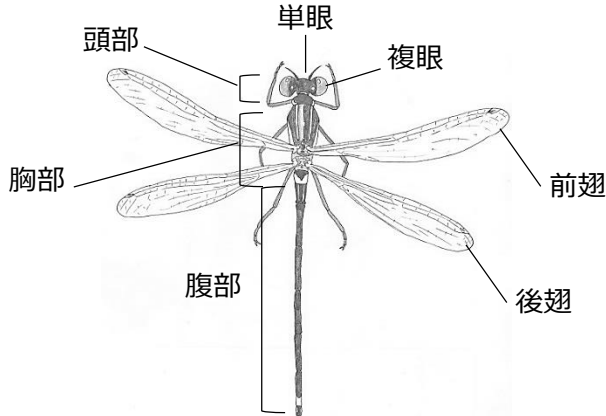


# とねり自然図鑑



動物、昆虫や花などいろいろな自然の写真を「フォトクラブメビウス」の会員方にご協力いただき、毎月発行しております。写真にちなんだ「へえ〜」という情報もお楽しみに。

【撮影した安食正敏さんのつづやき】 鮮やかな青い色がスッと枝から伸びているように見えるほどピクリとも動かずトンボが止まっていた。体がとても細いトンボだと感じながらシャッターを切りました。



名称：アオモンイトトンボ（青紋糸蜻蛉）

学名：*Ischnura senegalensis*

体長：30-35mm

分布：本州、四国、九州、沖縄

時期：4-9月

行動：昼行性

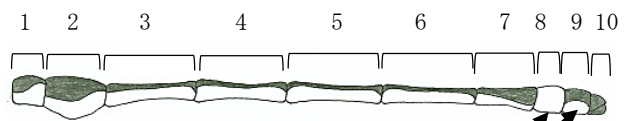
主食：小蛾類、ハエ、ユスリカ等

## 【トンボの見分け方】

○トンボの中には「イトトンボ」と呼ばれるグループがあり、このアオモンイトトンボも名前の通りそのグループの昆虫です。表紙の写真をもてわかるように糸とまではいきませんが、細長いのが特徴です。実はこの「イトトンボ」、見分けるのが難しいといわれるトンボの中でも一番見分けづらいグループです。このアオモンイトトンボはアジアイトトンボというトンボと体型や色までそっくりです。

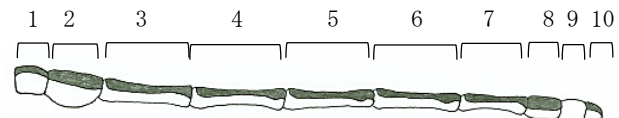
では、その2つのトンボをどう見分けるのかというとお腹の部分なのです。腹部は区切られて、これを節（せつ）といいます。これを頭の方から1節、2節と順番に数えていくと、アオモンイトトンボは8、9節目に青い色が付いています。そしてアジアイトトンボは9、10節目に青い色が付いています。実際には動いているので、これを見極めるというのは至難の技かもしれません。これがトンボの見分けが難しいといわれるところなのでしょう。

【アオモンイトトンボ】



この部分が青色

【アジアイトトンボ】



この部分が青色

## 『舎人図書館にある参考資料の一部を紹介↓』

尾園暁、川島逸郎、二橋亮『日本のトンボ』 文一総合出版

矢島稔、無藤隆『こんちゅう』 フレーベル館

川邊透『昆虫探検図鑑1600』 全国農村教育協会

毎月集めて、舎人地域学習センター・図書館のオリジナル図鑑をつくろう！